

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	京都光華女子大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	キョウト コウカ ジョシ ダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F126310107537
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	京都府
	大学等名1(代表大学等)学校種別	私立大学
	科目名	専門実習(長期インターンシップ)
	学部・研究科等名	キャリア形成学部 キャリア形成学科
	担当教職員名・役職	上田 修三・教授, 乾 明紀・准教授
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	5
	受入企業等数	3
	受入企業等名	ニックス(株)、(株)フラットエージェンシー、京都府笠置町(自治体)
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	この長期インターンシップ実習に参加するためには、3年次前期初めの概要説明(実習先企業担当者、個別カウンセリング担当者、担当教員が実施)への出席、実習先希望調査への対応、学内応募、学内選考(エントリーシートの提出+教員面接)、実習先選考に参画する必要がある。このプロセスを通過することは業界研究・企業研究・地域理解・自己分析の実践を経て、就職活動の疑似体験を体現することにつながる。結果的に、実習先選考に不合格の場合であっても、近い将来の就職活動への意識づけを醸成することになる。実習先においては、最初の段階で、接遇教育や業界動向・地域情報の研修が設定され、取引先への同行、地域調査(インタビュー等)、課題の発見と解決(案)のプレゼンが組み込まれている。実習中盤の中間報告会、最終報告会で進捗状況や成果物の達成状況を共有することができる。
要素	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	2.当該インターンシップは、キャリア教育科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年 大学 学部4年

②

2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位
2-5.上記回答内容に関する詳細	企業や自治体等の「現場」で半年間（後期授業9月期から翌年1月期）、毎週1回（一日）の実習を行う。「職場体験」を目的としたインターンシップや「企業紹介」ような1dayインターンシップとは異なり、卒業後に「総合職として活躍」できるための知識やスキルを習得することを目的としている。その目的達成のため、現場実習では、実習先から提示される課題を遂行し、インターンシップ実習の受け入れ先に合わせた成果物の作成に取り組む。授業概要で示した内容の他に、実習前後には、大学にて事前事後学習の機会がある。

要素
③

3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
3-2-1.該当する事前学習の内容	<p>1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている</p> <p>2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている</p> <p>3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている</p> <p>4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している</p>
3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
3-2-2.該当する事後学習の内容	<p>1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている</p> <p>2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている</p> <p>3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている</p>
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
3-2-3.該当するモニタリング	2.インターンシップ中に、学生が定期的に大学等において教職員と面談を実施している
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	担当教員による「インターンシップ」概要説明説明の後、前年度実績や成果物を紹介する。さらに、受け入れ先の担当者から当該実習先企業・団体を紹介する（事前学習では実習先企業・団体の候補。2020年度は4企業（団体）を候補として紹介した。）また、実習生のパソコンスキルチェックや実習先でのコンプライアンス順守(社内規定や顧客情報管理等)に関する誓約書(大学が作成、実習生が署名し、インターンシップ初日に実習先に提出)について説明。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	実習先企業・団体でのインターンシップ実績を報告。目前(2021年3月始動)の就職活動を踏まえての振り返りや履歴書(エントリーシート)への反映を指導。また、後輩学生への助言。

	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	インターンシップ実習の中盤で中間報告会を実施する。実習生+実習先+実習生所属ゼミ担当教員+国家資格キャリアコンサルタント（外部人材）+インターンシップ担当教員（国家資格キャリアコンサルタント資格）が参画する。これにより業界動向や相違点を情報共有する。特に、実習先企業・団体関係者が他社の受け入れ情報を共有し、インターンシップ後半の運営の参考にしている。国家資格キャリアコンサルタントによるカウンセリングではa) 仕事の概要（一日の流れ）、b) 実習先に指導者についてよい点や不安や過不足がないか、c) 実習の課題について具体的な進捗を確認、d) 実習での仕事に関する疑問や実習生が感じる問題点、e) 前述の疑問や問題点にどのように対処したか（するか）、f) 身に付けたいと考えていること、g) 長期インターンシップが自分の就職活動に役立つと考える点、h) 実習先や取引先との関係においてハラスメントを想起すること、j) その他の意見や感想等、a)～j)の内容を中心に、face to faceで情報共有する。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている 2.社会で求められる汎用的能力等を客観的に測定するためのテストを用いて、インターンシップの実施前後で回答を求めている 3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	実習先でのインターンシップ1回毎(一日毎)に実習生が実習先で業務日誌を作成⇒実習先の指導者に報告⇒実習先の指導者がコメント記載⇒大学の指導教員に報告するフローにより、課題の共有、目標達成までの進捗を評価する。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	事前1日+実施日8日～13日(実習先と調整)+中間報告会1日+最終報告会1日(実習先)+学内報告会+事後1日。(実績例 ニックス(株)：通算8日、(株)フラットエージェンシー：通算13日、京都府笠置町：通算12日)
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	
	5-3.上記回答内容に関する詳細	事前1日(学内選考ならびに実習先選考が終了した、夏季休暇期間)+実習先8日～13日間(現場や取引先訪問等)+中間報告会(実習先日程の過半終了時期)+最終報告会(実習終了後、実習先での成果報告会)+学内報告会1日+事後1日
	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい

要素⑥	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
		5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
		6.企業と協働して、P D C Aを実施している
	6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容	
	6-3.上記回答内容に関する詳細	実習先でのインターンシップ1回毎（一日毎）に、実習生が実習先で業務日誌を作成⇒実習先の指導者に報告⇒実習先の指導者がコメント記載⇒大学の指導教員に報告するフローにより、課題の共有、目標達成までの進捗を評価する。実習先と業界動向、求める人材像、昨今の採用情報を事前に共有し、学科として指導している汎用スキルや社会人基礎力との相関を勘案してプログラム設計に反映している。中間報告会は実習先の受け入れ担当者と大学教員の両者が出席することにより、実習受け入れの整備の参考になっている。最終報告会は実習先企業内・団体内で共有することにより、社内イベントとしてのプレゼンスを高め、次年度継承に寄与している。
	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	
問い合わせ先	大学等名	京都光華女子大学
	担当部署名	キャリア形成学部 キャリア形成学科
	担当者役職名	学科長・教授
	担当者氏名	高野 拓樹
	電話番号	075-325-5448
	メールアドレス	h-takano@mail.koka.ac.jp